

平成29年度

海南市地域防災活動支援事業 実績報告

～ 冷水地区 ～



平成30年3月

海南市

《 目 次 》

1. 概要.....	1
1. 地域支援事業の趣旨.....	1
2. 事業の目標.....	1
3. 実施概要.....	1
2. 防災研修会.....	3
1. 第1回防災研修会.....	3
1. 概要3.....	
2. 実施風景.....	4
2. 第2回防災研修会.....	5
1. 概要5.....	
2. 実施風景.....	5
3. 防災マップの作成と地区の取組の検討結果.....	7
4. わが家の避難マップ.....	8
3. 第3回防災研修会.....	11
1. 概要11.....	
2. 実施風景.....	11
3. 内海小学校防災学習会.....	13
1. 概要.....	13
2. 実施風景.....	13
4. 防災訓練.....	14
1. 概要.....	14
2. 訓練時の状況.....	14
5. 訓練報告会.....	17
1. 概要.....	17
2. 実施風景.....	17
3. 訓練の振り返り結果.....	20
6. 訓練後アンケート結果.....	23
7. 研修会及びアンケートのご意見・ご要望への回答について.....	31

1. 概要

1. 地域支援事業の趣旨

南海トラフ地震に備え、地震発生時の適切な行動や津波からの避難行動を身に付けるため、地域の大半が浸水想定区域である重点地区（冷水地区）を対象に、津波避難訓練を実施する。

訓練当日は、防災行政無線放送により「大津波警報」が伝達され、地域住民は研修会で想定した避難のタイミングや避難経路に従い、訓練に取り組むことで、それぞれが災害時に必要となる避難行動を確認する。また、地区の学校と連携した取組を進める。

2. 事業の目標

市民一斉訓練で実施している、津波から「逃げ切る」訓練を一步進め、自主防災組織、また住民ごとに、具体的な避難行動とそのタイミング、要配慮者の支援、避難場所から避難所への避難（二次避難）を想定し、避難時の注意すべき場所の把握、また災害時の体制と行動を整理することで、地域住民一人ひとりの「自助」「共助」の精神の育成を図る。

3. 実施概要

(1) 防災研修会

【第1回】

日時	平成29年8月25日（金）19:00～21:00
場所	海南保健福祉センター 2階 多目的ホール
内容	1. 主催者挨拶 2. 学識経験者による講演 3. ワークショップ〈防災マップを用いた避難行動の検討〉 4. 第2回防災研修会の予定と準備について

【第2回】

日時	平成29年10月7日（土）15:30～16:30 ※研修会開催前（14:00～15:00）に各地区でまち歩きを実施
場所	冷水地区集会所
内容	1. 重点地区防災研修会・訓練スケジュールについて 2. ワークショップ〈まち歩き結果の防災マップへの落とし込み、取組の検討〉

【第3回】

日時	平成 29 年 10 月 13 日（金） 19:00～21:00
場所	冷水地区集会所
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訓練当日のスケジュール・内容について 2. 内海小学校の取組について 3. 要配慮者の支援方法について 4. 訓練までの準備事項等について

(2) 内海小学校防災学習会

日時	平成 29 年 8 月 29 日（火） 10:45～12:20
場所	内海小学校 教室
内容	1. 震災・学校支援チーム（EARTH）員による講話

(3) 防災訓練

日時	平成 29 年 11 月 12 日（日） 9:00～10:10
場所	冷水地内
内容	津波避難訓練

(4) 防災訓練報告会

日時	平成 29 年 11 月 27 日（月） 19:00～21:00
場所	冷水地区集会所
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主催者挨拶 2. 訓練について市からの報告 3. 訓練の報告会 4. 会長挨拶

2. 防災研修会

1. 第1回防災研修会

1. 概要

日時	平成29年8月25日（金）19:00～21:30
場所	海南保健福祉センター 2階 多目的ホール
参加者	地区参加者 32名 職員参加者(避難所配備職員) 2名 合計 34名
内容	<ol style="list-style-type: none">主催者挨拶 研修会の開催趣旨の説明学識経験者による講演 テーマ「自然災害に対して地域・地区で取り組む」 公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター 研究部 主任研究員 荒木 裕子氏ワークショップ〈防災マップを用いた避難行動の検討〉<ul style="list-style-type: none">地区のグループ員で、地区で想定する避難場所・避難路、避難行動のタイミング、要配慮者の支援、二次避難について協議し、大判（A0）防災マップに記載第2回防災研修会（まち歩き）の予定と準備について<ul style="list-style-type: none">次回第2回防災研修会の実施日程・内容について案内第1回防災研修会で作成した地区の防災マップをもとに、避難路の危険箇所等を第2回防災研修会で反映させるための、事前のまち歩きを依頼

2. 実施風景

(1) 主催者挨拶、学識経験者による講演



主催者挨拶



学識経験者による講演

(2) ワークショップ（地区の防災マップ作成）の様子



2. 第2回防災研修会

1. 概要

日時	平成29年10月7日(日) 15:30~16:30 ※研修会開催前 (13:30~14:00)に避難所について説明 (14:00~15:00)地区でまち歩きを実施
場所	冷水地区集会所
参加者	地区参加者 33名
内容	1. 重点地区防災研修会、訓練スケジュールについて 第2回研修会及び今後の流れの説明 2. ワークショップ〈まち歩き結果の防災マップへの落とし込み、 取組の検討〉 ・まち歩きで確認した避難路の危険箇所等を、第1回防災研修会 で作成した防災マップに反映 ・まち歩きで確認した危険箇所等についての問題点とその対策に ついての協議

2. 実施風景

(1) まち歩き、ワークショップの様子



冷水駅前バス停周辺



冷水駅前バス停周辺



冷水中バス停周辺



冷水中バス停周辺



冷水バス停周辺



冷水バス停周辺



ワークショップの様子



ワークショップの様子

3. 防災マップへの落とし込みとまち歩き結果における問題点の検討

※作成した防災マップ

①避難場所・避難経路と避難路の問題点、要配慮者、二次避難の確認



- ・避難場所（日限地蔵周辺）までの避難経路をマーカーで記入
- ・各自治会内で避難時に支援が必要と考えられる家庭をマーカーで着色
- ・避難場所から避難所までの避難が可能かどうか確認、マーカーで記入

②まち歩きを実施し注意を要する箇所に対する対策の検討

まち歩きの結果における問題点と対策 整理シート① (冷水1)

番号	問題点の具体的な内容	対策(どうすれば)
①	上り坂のため、車イスでの避難に支援が必要	・車イスの方の支援を複数で行う
②	道が細く、災害時通れない可能性がある	・代わりの避難ルートも考え、訓練等で時間を確認しておく
③	古いブロック塀が続いているので、倒れてくる可能性がある	・ブロック塀から離れて歩く ・道が細いので、代わりの避難ルート、またかかる時間も確認しておく。
①	駅下のブロック塀が倒れてくる可能性あり	ブロック塀から離れて歩く
②	駅上の道路面の凹凸が車イスの通行に障害となっている	セメントで修理する
	要介護者の搬送で道が狭い	国道のトンネル壁に担架を設置する
	上り坂のため、車イスでの避難に支援が必要	避難路を拡幅
	古いブロック塀が続いているので、倒れてくる可能性がある	避難路としては困難(他のルートを考える)
	道が細く、災害時通れない可能性がある	他のルートを考える または、拡幅

- ・まち歩きの実施し、注意を要する場所の内容を記入
- ・問題点に対する対策を協議

③津波の到達予想時間の確認、地震発生後の取組、二次避難先の避難所の確認

(冷水2) 冷水第2・第3町内 防災マップ 協議用記入用紙

① 地区の指定等 ② 避難順序	③ 地震発生後の地区の取組みの想定(時系列)	④ 地震発生後の地区の取組みの想定(時系列)					⑤ 避難生活を行う避難所															
		地震発生後 ～15分後	16分後 ～30分後	31分後 ～45分後	46分後 ～60分後	61分後以降																
国道42号 冷水バス停 周辺 冷水598付近 標高24.6m 緊急避難先レベル ☆☆☆	約45分 約50分 約55分 約65分 約70分	◎◎ 自主防災会本部開設(場所: ○メンバー安否確認(トランシーバー) ○他の住民への協力依頼と役割分担 ○情報収集 津波警報レベル ・住民安否 ・建物、道路状況 ・海南市(本部開設と支援要請) ○資機材準備 ◎◎ 避難行動要支援者避難支援 ◎◎ 避難の声かけ及び避難誘導 ◎◎ 負傷者救出、救護	◎◎ 状況により住民へのさらなる協力依頼 ◎◎ 避難行動要支援者避難支援 ◎◎ 負傷者救出、救護 ◎◎ 避難の声かけ及び避難誘導 ◎◎ 情報収集 ◎◎ 避難状況 ◎◎ 被害状況	◎◎ 負傷者救出、救護 ◎◎ 避難場所での避難者確認(安否確認カード) ◎◎ 情報収集、整理 ◎◎ 被害状況全般 ◎◎ 海南市(支援体制等) ◎◎ 避難所への移動検討 ◎◎ 経路、受入準備状況 ◎◎ 希望者確認 ◎◎ 移動手段、時機 ◎◎ 公助までの共助体制	塩津小学校																	
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>指定避難所名</th> <th>住所</th> <th>距離</th> <th>標高</th> <th>土砂災害警戒区域</th> <th>特記事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内海小学校冷水分校(林校)</td> <td>省略</td> <td>省略</td> <td>省略</td> <td>警戒区域 ☆</td> <td>耐震二次診断調査中のため現在使用禁止。海南市ホームページの「指定避難所」には「画(調査中)」と明記されている。調査内容等の詳細については、別紙「内海小学校冷水分校耐震二次診断業務について」を参照。</td> </tr> <tr> <td>塩津小学校(林校)</td> <td>干津町塩津908番地</td> <td>JR冷水通駅より約3km</td> <td>46m</td> <td>警戒区域 ☆</td> <td>冷水分校が上記調査中のため、海南市から「地区外避難所」として提示された。人命に係る問題として「避難所がない」という空白状態は絶対に回避しなければならない。現在実施に向けて具体的な問題点等について検討・調整中。</td> </tr> </tbody> </table>	指定避難所名	住所	距離	標高	土砂災害警戒区域	特記事項	内海小学校冷水分校(林校)	省略	省略	省略	警戒区域 ☆	耐震二次診断調査中のため現在使用禁止。海南市ホームページの「指定避難所」には「画(調査中)」と明記されている。調査内容等の詳細については、別紙「内海小学校冷水分校耐震二次診断業務について」を参照。	塩津小学校(林校)	干津町塩津908番地	JR冷水通駅より約3km	46m	警戒区域 ☆	冷水分校が上記調査中のため、海南市から「地区外避難所」として提示された。人命に係る問題として「避難所がない」という空白状態は絶対に回避しなければならない。現在実施に向けて具体的な問題点等について検討・調整中。		
指定避難所名	住所	距離	標高	土砂災害警戒区域	特記事項																	
内海小学校冷水分校(林校)	省略	省略	省略	警戒区域 ☆	耐震二次診断調査中のため現在使用禁止。海南市ホームページの「指定避難所」には「画(調査中)」と明記されている。調査内容等の詳細については、別紙「内海小学校冷水分校耐震二次診断業務について」を参照。																	
塩津小学校(林校)	干津町塩津908番地	JR冷水通駅より約3km	46m	警戒区域 ☆	冷水分校が上記調査中のため、海南市から「地区外避難所」として提示された。人命に係る問題として「避難所がない」という空白状態は絶対に回避しなければならない。現在実施に向けて具体的な問題点等について検討・調整中。																	

- ・ 地区ごとの津波の到達予想時間を確認
- ・ 地震発生後の地区の取り組み(声かけ、救助・救出等)を想定し、取り組みを行う時間帯ごとに記入
- ・ 避難生活を送る避難所(二次避難先)を想定

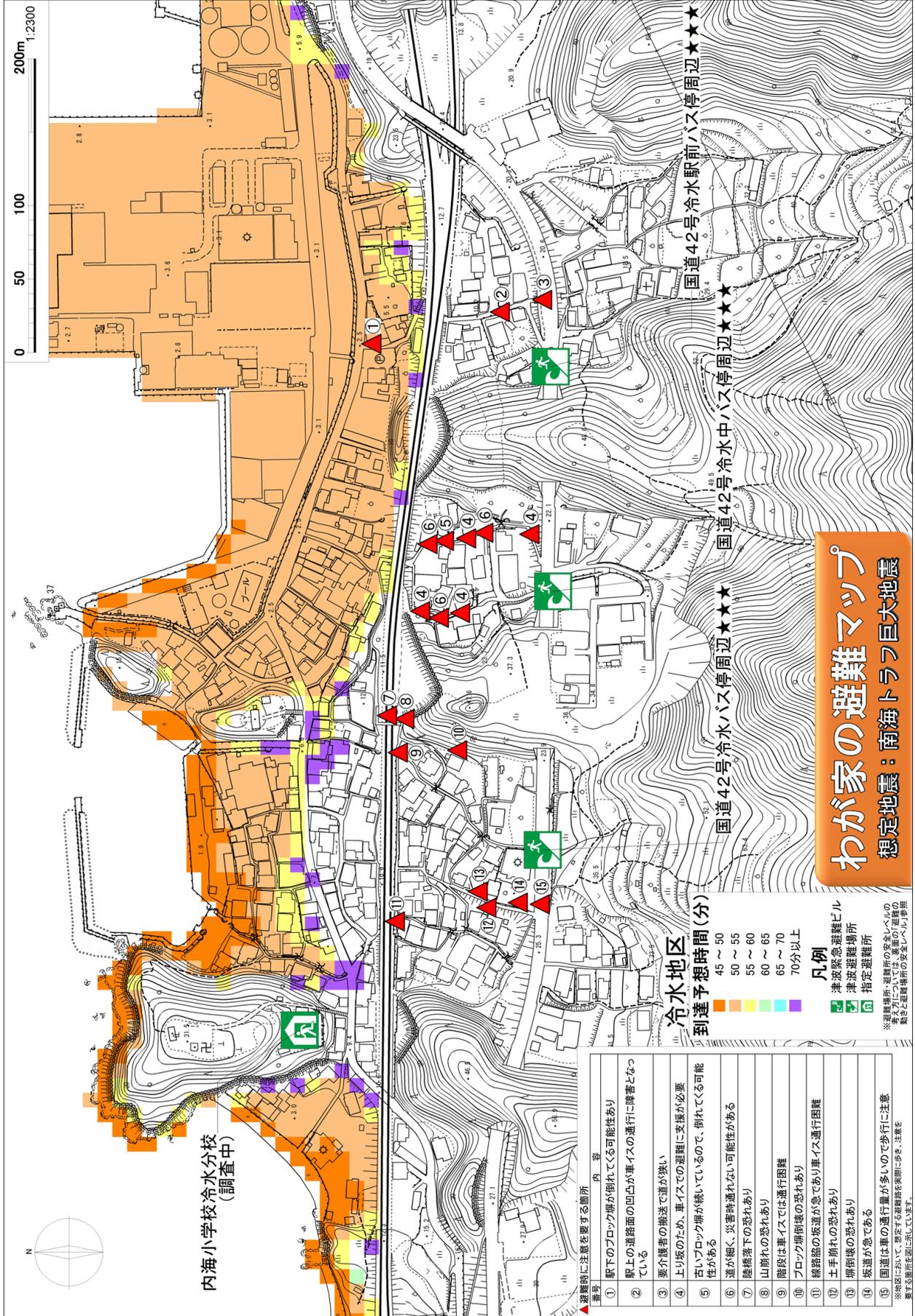
4. わが家の避難マップ

津波の到達時間、避難時の注意すべき箇所を記載した「わが家の避難マップ」を各世帯に配布。

地図面(表面)は各世帯による避難場所、避難ルートを記入。

啓発面(裏面)は津波時の避難行動等の知識習得、災害時の行動を整理し記入。

(マップは次ページ)



内海小学校冷水分校
(調査中)

冷水地区
到達予想時間(分)

- 45 ~ 50
- 50 ~ 55
- 55 ~ 60
- 60 ~ 65
- 65 ~ 70
- 70分以上

凡例

- 津波緊急避難ビル
- 津波避難場所
- 指定避難所

※避難場所・避難所は、避難の安全への配慮を考慮し、避難場所の安全・避難所指定避難所を優先して掲載しています。

番号	避難時に注意する箇所 内容
①	駅下のブロック塀が倒れてくる可能性あり
②	駅上の道路面の凹凸が車イスの通行に障害となっている
③	要介護者の搬送で道が狭い
④	上り坂のため、車イスでの避難に支援が必要
⑤	古いブロック塀が続いているので、倒れてくる可能性がある
⑥	道が細く、災害時通れない可能性がある
⑦	陸橋落下の恐れあり
⑧	山崩れの恐れあり
⑨	階段は車イスでは通行困難
⑩	ブロック塀倒壊の恐れあり
⑪	線路脇の坂道が急であり車イス通行困難
⑫	土手崩れの恐れあり
⑬	塀倒壊の恐れあり
⑭	坂道が急である
⑮	国道は車の通行量が多いので歩行に注意

※地区において、想定する避難経路を掲載し、注意を要する箇所を明示しています。

わが家の避難マップ
想定地震：南海トラフ巨大地震

(啓発面)

地震・津波災害時の避難行動



津波警報・注意報の発表内容

津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より「津波警報」等が発表されます。通常、予想される津波の高さは5段階の数値で発表されますが、マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合、まずは「巨大」や「高い」という言葉で発表し、非常事態であることを伝えます。

種類	大津波警報(特別警報)	津波警報	津波注意報
予報される津波の高さの発表	10m超	10m	5m
数値での発表	巨大	高い	(表記しない)
巨大地震の発生が発表	○	○	○

津波緊急避難ビル:津波到達までに津波浸水域外に避難できない方が緊急に避難する建物 津波避難場所:津波の危険から逃れるために緊急に避難する場所 指定避難所:一時的な避難生活場所

避難にかかる時間を想像しよう

(実際の災害時は想定どおりの避難ができない場合もあるため、おおよその目安にしてください。)

① 避難する場所	③ 自宅付近に津波が到達する時間	⑤ 避難場所への移動以外に行うことの内容・かかる時間	⑥ 避難にかかる時間(④+⑤)
	約 分	内容	約 分
		時間	分
			⑦ 近隣の要配慮者の支援の内容
② ①の避難場所から避難所への移動	④ ①の避難場所までの移動時間		分
	約 分		分
			分

3. 第3回防災研修会

1. 概要

日時	平成29年10月13日（水）19:00～21:00
場所	冷水地区集会所
参加者	地区参加者 33名 内海小学校2名（校長、教頭）、社会福祉協議会 2名 合計 37名
内容	1. 訓練当日のスケジュール・内容について ・危機管理課、地区会長より訓練当日のスケジュール、実施内容について説明 2. 内海小学校の取組について ・内海小学校より、当日の訓練等の実施内容について説明 3. 要配慮者の支援方法について ・市より要配慮者の避難支援例について説明 ・社会福祉協議会より要配慮者への具体的な支援方法及び車イスの使用方法について、地区参加者の実演とともに説明 4. 訓練までの準備事項等について ・訓練までに各家庭用での「わが家の避難マップ」の配布及び作成を依頼

2. 実施風景



内海小学校の説明



社会福祉協議会の説明



車イス使用方法の説明



実演の様子



実演の様子



実演の様子



会長挨拶



会場の様子

3. 内海小学校防災学習会

1. 概要

日時	平成 29 年 8 月 29 日 (火) 10:45～12:20
場所	内海小学校 教室
参加者	5 年・6 年生児童 校長、教頭、5 年・6 年生担当教諭
内容	1. 震災・学校支援チーム (EARTH) 員による講話 テーマ「災害が起きたら」 震災・学校支援チーム (EARTH) 山路 摩美子 氏 ・本市に想定される災害や、過去の震災等の避難所生活の移り変わり、災害時における心のケアの方法について教示

2. 実施風景



防災学習会の様子 (5年生)



防災学習会の様子 (6年生)

4. 防災訓練

1. 概要

日時	平成 29 年 11 月 12 日（日） 9:00～10:10
場所	冷水地内
参加者	地区参加者 （消防団、婦人消防クラブ、民生委員児童委員、小中学校生徒等含む） ※内海小中学校生徒は、授業として、自宅より避難訓練を実施 合計 210 名
内容	津波避難訓練 （テーマ）地区の想定する訓練 ①揺れから身を守る行動 ②避難訓練 ③安否確認訓練 ④非常食支給訓練

2. 訓練時の状況



避難誘導の様子



J R 路線への避難



安否確認の様子



国道（避難場所）への避難



国道（避難場所）への避難



国道（避難場所）への避難



国道（避難場所）への避難



国道（避難場所）への避難



避難場所の様子



避難場所の様子



非常食支給訓練の様子



非常食支給訓練の様子



非常食支給訓練の様子



非常食支給訓練の様子



非常食支給訓練の様子



安否確認（本部）の様子

5. 訓練報告会

1. 概要

日時	平成 29 年 11 月 27 日（月） 19:00～21:00
場所	冷水地区集会所
参加者	地区参加者 31 名
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 主催者挨拶2. 訓練について市からの報告<ul style="list-style-type: none">・重点地区防災訓練結果や要配慮者支援の取組、他地区・他市町村の訓練事例、海南市で実施している事業について紹介・報告3. 訓練の報告会<ul style="list-style-type: none">・5つのテーブルに分かれ、訓練結果等について話し合い、「報告シート」に記入・「報告シート」により各テーブル代表者が発表4. 会長挨拶

2. 実施風景

(1) 主催者挨拶、市からの報告



主催者挨拶



市からの報告

(2) テーブルによる話し合いの様子



(3) 各グループの発表、会長挨拶



J R 冷水浦駅周辺グループ



東出 J R トンネル周辺グループ



J R 歩道橋周辺グループ



J R 寺川トンネル周辺グループ



本部グループ



会長挨拶

3. 訓練の振り返り結果

※取組結果である「報告シート」の内容をそのまま掲載

グループ名	気を付けたこと（実施前・実施中）	気づいたこと（実施後）（良かったと思う点、気がかった点、注意したい点）	問題点・改善点等の意見	一般参加者の方からの意見	要配慮者支援の取組（こんなことができないか等）	小学生等の参加（良かったと思う点、気がかった点、注意したい点）
JR冷水浦駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者の人数確認 ・避難中の凹凸があるので安全に！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・スムーズだった 	なし	なし	なし	なし
東出JRトンネル周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・避難通路が狭い ・手摺がボロボロ、低い ・足元確認しながら通過した 	<ul style="list-style-type: none"> ・年配者が声を掛けながら訓練参加した ・指示命令がうまく伝わり良かった ・安否カードの合計で非常食を配布するが、各組長は合計人数をおぼえていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストを活用するように工夫する ・カップヌードルと水を1セットにして、ダンボールで配布してほしい ・要支援者の人も参加できるように考えてほしい（支援体制） 	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの人3人位が声かけする、手助けする 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で参加でき、良かった

グループ名	気を付けたこと(実施前・実施中)	気づいたこと(実施後)(良かったと思う点、気にかかった点、注意したい点)	問題点・改善点等の意見	一般参加者の方からの意見	要配慮者支援の取組(こんなことができないか等)	小学生等の参加(良かったと思う点、気にかかった点、注意したい点)
JR歩道橋周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練当日の参加協力を事前に組長自ら一軒一軒訪問していただき参加を呼び掛けていただいた。特に高齢者の方に参加体験をしていただき、実際に避難路を歩くことで自信がついたとお聞きしました。 ・特に避難時には足元は安全なはきものを身に付けているか確認しました。 ・避難路が大変狭く片側が少し高い溝となり歩行に十分気を付けるよう叫びながら誘導した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練と実際の格差が発生する予測がつかない(対応策) ・今日歩いた避難路だけでなく、幾多の避難路を考えておいてほしい(通行不能が起きるかも) 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間における訓練が未実施である。 ・停電したとき、街燈が消える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加して良かったとおっしゃる高齢者の方が多かった。 ・「協力しながら、助け合いながら、一緒に歩こうね」という団結心が生まれた。 ・当地区の避難路は階段や急な坂があり、高齢者にとっては厳しい道であったので、途中休憩を取りながら(ゆっくり)登ったのでよかったと言われた。 	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の参加により、保護者が参加できたことが大きかった。

グループ名	気を付けたこと（実施前・実施中）	気づいたこと（実施後）（良かったと思う点、気にかかった点、注意したい点）	問題点・改善点等の意見	一般参加者の方からの意見	要配慮者支援の取組（こんなことができないか等）	小学生等の参加（良かったと思う点、気にかかった点、注意したい点）
JR寺川トンネル周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなグループにまとまって行動しようとした。 ・すぐに山手に行った。 ・要支援者をフォローしながら逃げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道が悪い ・年よりはにはキツイ ・避難場所にイスがほしかった。 ・解散がわからなかった。 ・声かけしてほしかった。 	左に同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・今回スムーズにできた ・足不自由な人が多く、参加できない人が多くなってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車イスが通れる道の確保等 	良かった
本部	<ul style="list-style-type: none"> ①非常食数量を確実に把握する事 ②国道へのはみ出しを防ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援者について、避難経路の問題などで参加できなかった人が多かった。 ・実際的な対処を考え、要支援者について具体的案を出しておくべき 	避難経路の見直し（例）寺川鉄工所に本部の場合は西の隧道を通るのに一番危険がないのではないのでしょうか	避難する際、坂道が大変。二次避難訓練を確保しないと駄目かな。本日のご意見を取り込みたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者の支援を実際に行うことができなかったのので、次回の訓練では必ず行う。 ・JR国道のガードへ担架を置いてほしい 	先生はいらない 単独参加

6. 訓練後アンケート結果

※アンケート回答数 140 件 ※各項目で、小数点以下第2位を四捨五入しているため、100%にならない場合があります。

1. 回答者の内訳（自治会、年齢、性別、家族構成）

【お住まいの自治会】

冷水自治会	140	100%
-------	-----	------

【年齢】

10歳未満	0	0.0%
10代	0	0.0%
20代	0	0.0%
30代	3	2.1%
40代	13	9.3%
50代	14	10.0%
60代	32	22.9%
70代	41	29.3%
80代以上	34	24.3%
無回答	3	2.1%
合計	140	100.0%

【性別】

男	59	42.1%
女	76	54.3%
無回答	5	3.6%
合計	140	100.0%

【ご自宅での家族構成】

単身世帯	32	22.9%
夫婦のみ	41	29.3%
2世代世帯（親と子）	44	31.4%
3世代世帯（親と子と孫）	14	10.0%
その他	1	0.7%
無回答	8	5.7%
合計	140	100.0%

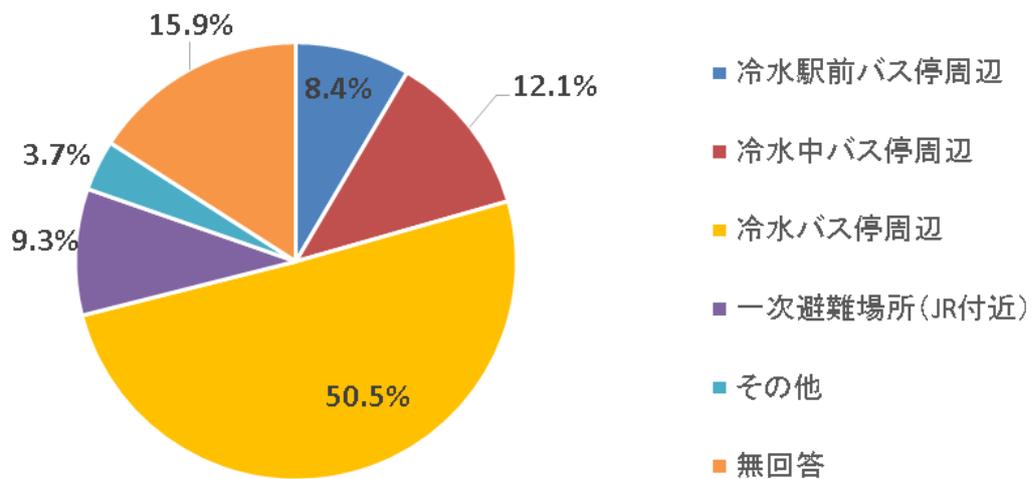
2. 訓練への参加状況

【11月12日（日）に実施された津波避難訓練に参加されましたか？】

参加した	107	76.4%
参加しなかった	28	20.0%
無回答	5	3.6%
合計	140	100.0%

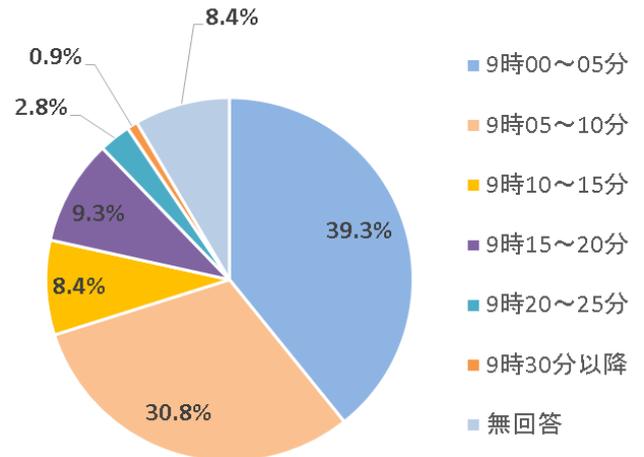
【訓練当日に避難した避難場所】

国道42号冷水駅前バス停周辺	9	8.4%
国道42号冷水中バス停周辺	13	12.1%
国道42号冷水バス停周辺	54	50.5%
一次避難場所（JR付近）	10	9.3%
その他	4	3.7%
無回答	17	15.9%
合計	532	100.0%



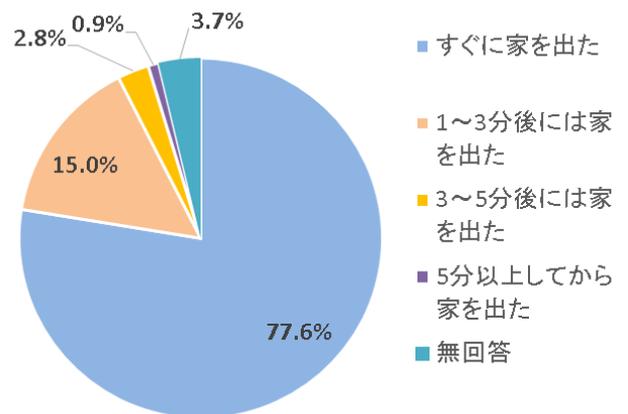
【今回の訓練では、避難場所に何時ごろ到着しましたか？】

9時00～05分	42	39.3%
9時05～10分	33	30.8%
9時10～15分	9	8.4%
9時15～20分	10	9.3%
9時20～25分	3	2.8%
9時25～30分	0	0.0%
9時30分以降	1	0.9%
無回答	9	8.4%
合計	107	100.0%



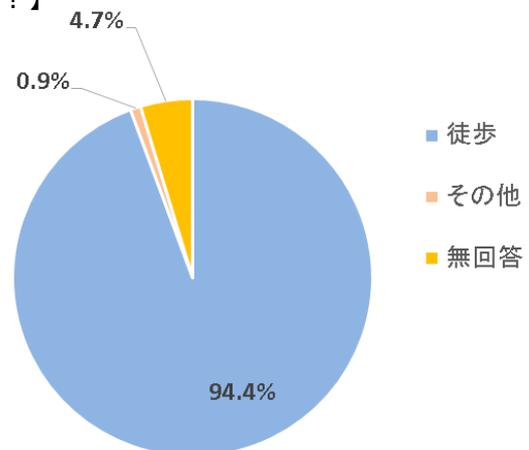
【避難訓練の開始の放送があった後、すぐに家を出ましたか？】

すぐに家を出た	83	77.6%
1～3分後には家を出た	16	15.0%
3～5分後には家を出た	3	2.8%
5分以上してから家を出た	1	0.9%
無回答	4	3.7%
合計	107	100.0%



【避難場所まで、どのような方法で避難しましたか？】

徒歩	101	94.4%
自転車	0	0.0%
バイク	0	0.0%
自動車	0	0.0%
その他	1	0.9%
無回答	5	4.7%
合計	107	100.0%

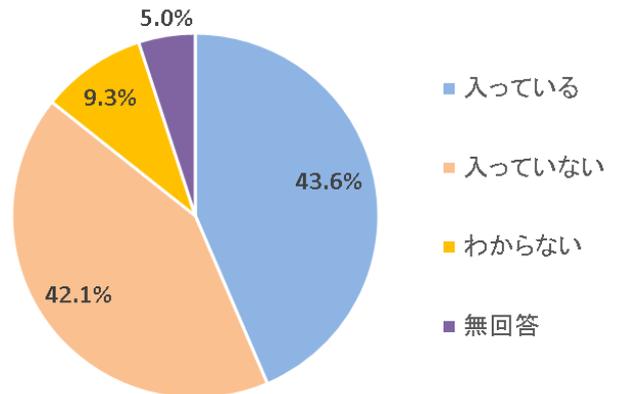


- ・約8割の住民が津波警報発表後、15分以内に避難場所に避難完了している
- ・避難場所までは、9割以上の住民が徒歩で避難している

3. 地震・津波に対する認識と危機意識

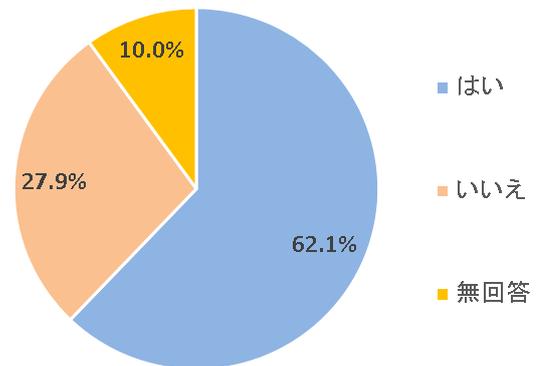
【ご自宅は、津波による浸水想定区域の中に入っていますか？】

入っている	61	43.6%
入っていない	59	42.1%
わからない	13	9.3%
無回答	7	5.0%
合計	140	100.0%



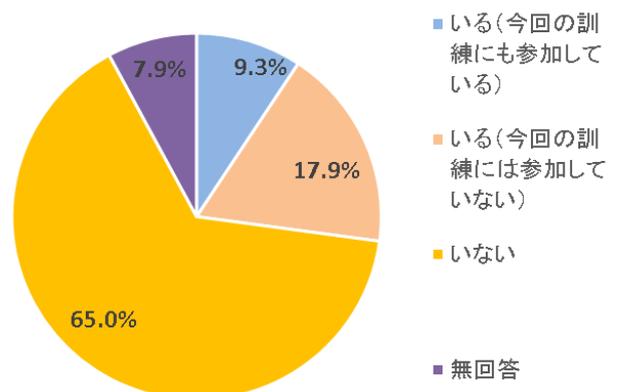
【今回、避難した場所以外に、他の避難場所も知っていますか？】

はい	87	62.1%
いいえ	39	27.9%
無回答	14	10.0%
合計	140	100.0%



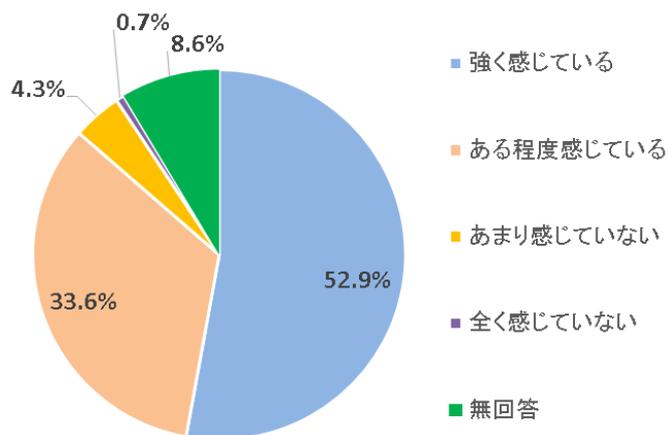
【ご家族の中に、自分で徒歩によって避難場所まで行くことができる方はいらっしゃいますか？】

いる（今回の訓練にも参加している）	13	9.3%
いる（今回の訓練には参加していない）	25	17.9%
いない	91	65.0%
無回答	11	7.9%
合計	140	100.0%



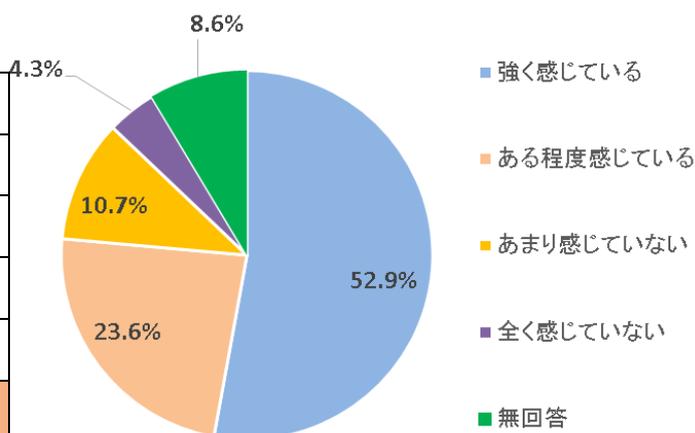
【南海トラフ地震の揺れによる住宅・建造物の被害に対して、
どの程度危機感を感じていますか？】

強く感じている	74	52.9%
ある程度感じている	47	33.6%
あまり感じていない	6	4.3%
全く感じていない	1	0.7%
無回答	12	8.6%
合計	140	100.0%



【南海トラフ地震の後に発生する津波による被害に対して、
どの程度危機感を感じていますか？】

強く感じている	74	52.9%
ある程度感じている	33	23.6%
あまり感じていない	15	10.7%
全く感じていない	6	4.3%
無回答	12	8.6%
合計	140	100.0%



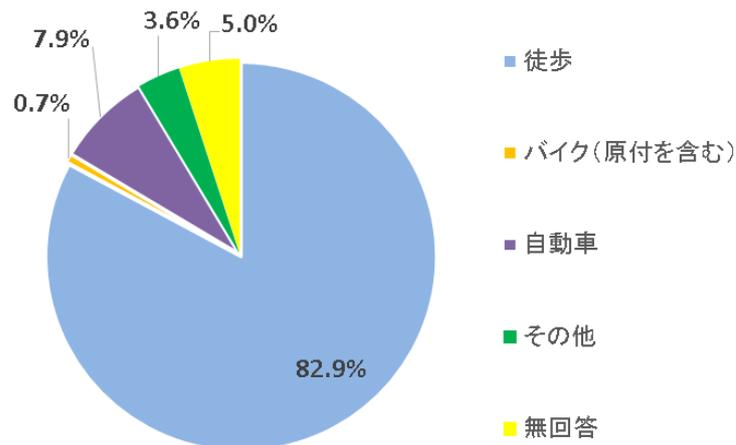
- ・ 自宅周辺の津波の浸水想定について、8割以上の住民が認知している
- ・ 自宅周辺の津波避難場所について、6割以上の住民が認知している
- ・ 家族の中に、自力で徒歩で避難場所まで行けそうにない人がいる住民が2割以上いる
- ・ 南海トラフ地震について、地震の揺れは8割以上の住民が、津波は7割以上の住民が危機感を感じている

4. 実災害時の避難の想定と問題点の認識

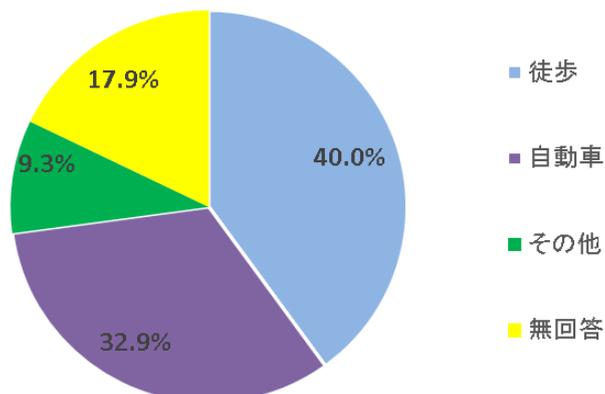
【ご自宅で家族全員がいるときに大きな揺れを感じる地震が発生し、大津波警報が発令された場合、実際には、どのような手段で避難しますか】

	家族全員が地震によってケガなどしていない場合		家族の中に地震による負傷者がいる場合	
徒歩	116	82.9%	56	40.0%
自転車	0	0.0%	0	0.0%
バイク（原付を含む）	1	0.7%	0	0.0%
自動車	11	7.9%	46	32.9%
その他	5	3.6%	13	9.3%
無回答	7	5.0%	25	17.9%
合計	140	100.0%	140	100.0%

家族全員が地震によってケガなどしていない場合



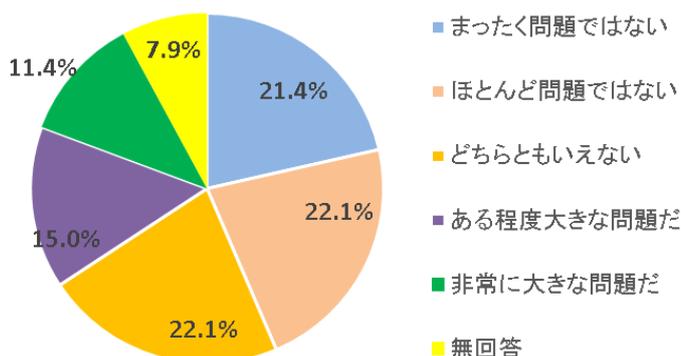
家族の中に地震による負傷者がいる場合



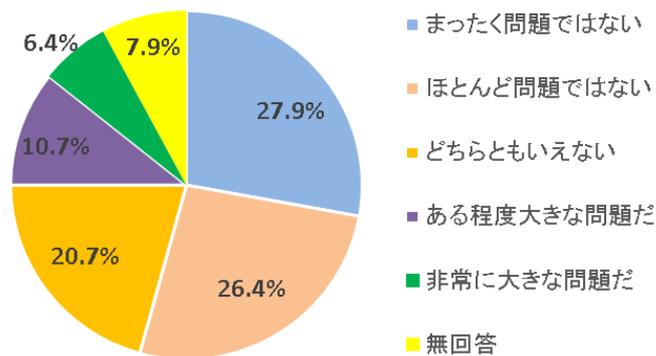
【大きな地震が発生した後、あなたと同じ場所に住んでいる家族でいっしょに津波から避難するとき、以下の項目は、どの程度、避難を困難にさせる問題だと思いますか】

	まったく問題ではない	ほとんど問題ではない	どちらともいえない	ある程度大きな問題だ	非常に大きな問題だ	無回答	合計
自宅から避難場所までの距離	30	31	31	21	16	11	140
	21.4%	22.1%	22.1%	15.0%	11.4%	7.9%	100%
自宅から外に出るまでに時間がかかること	39	37	29	15	9	11	140
	27.9%	26.4%	20.7%	10.7%	6.4%	7.9%	100%
道路が壊れて、徒歩では避難しづらくなっていること	6	13	37	29	40	15	140
	4.3%	9.3%	26.4%	20.7%	28.6%	10.7%	100%
道路が壊れて、自動車では避難できなくなっていること	8	10	26	26	44	26	140
	5.7%	7.1%	18.6%	18.6%	31.4%	18.6%	100%
避難する人が多くいるために、通行しづらくなっている場所があること	11	22	26	30	32	19	140
	7.9%	15.7%	18.6%	21.4%	22.9%	13.6%	100%
避難する時に、誰かに支援してもらわなければならないこと	27	29	37	16	17	14	140
	19.3%	20.7%	26.4%	11.4%	12.1%	10.0%	100%
周囲の人に対して、避難の支援をすること	12	19	55	20	14	20	140
	8.6%	13.6%	39.3%	14.3%	10.0%	14.3%	100%

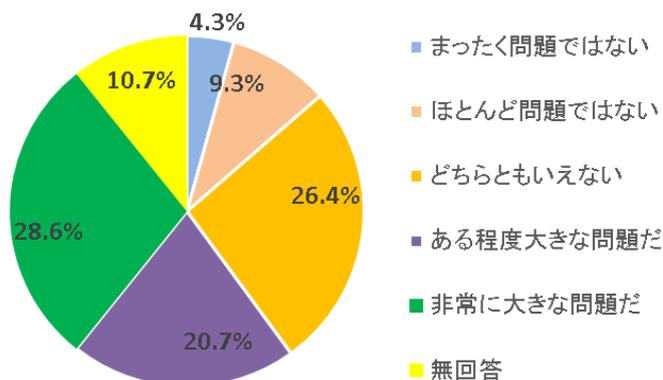
自宅から避難場所までの距離



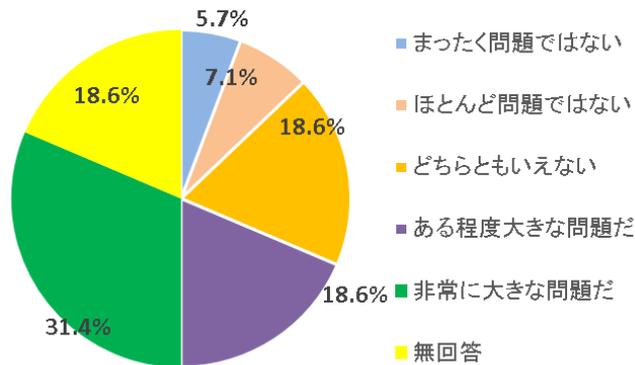
自宅から外に出るまでに時間がかかること



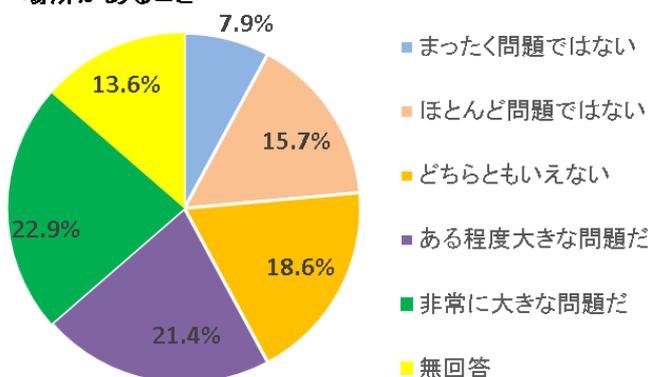
道路がこわれて、徒歩では避難しづらくなっていること



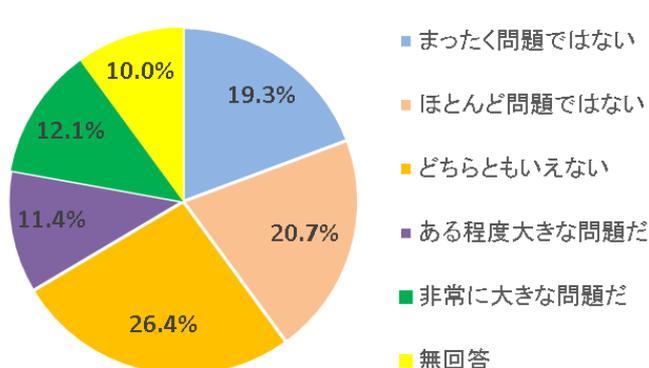
道路が壊れて、自動車では避難できなくなっていること



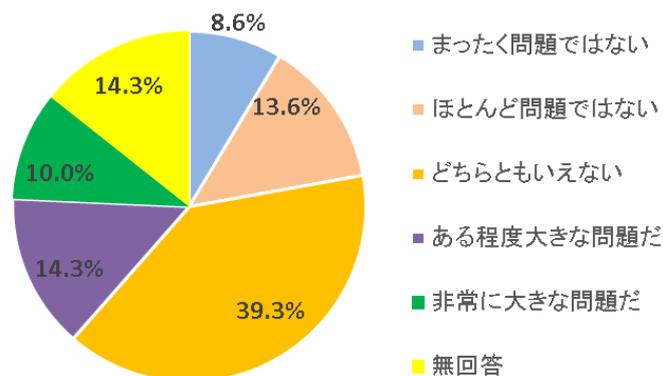
避難する人が多くいるために、通行しづらくなっている場所があること



避難する時に、誰かに支援してもらわなければならないこと



周囲の人に対して、避難の支援をすること



- ・地震発生後の避難の手段について、家族に負傷者がいない場合は8割以上が徒歩を想定しているが、負傷者がいる場合は徒歩での避難が4割になり、自動車での避難が約3割に増加している
- ・「道路が壊れて、徒歩では避難しづらくなっていること」、「避難する人が多くいるために、通行しづらくなっている場所があること」は約4割、「道路が壊れて、自動車では避難できなくなっていること」は約5割の住民が避難を困難にさせる問題と感じている。

7. 研修会及びアンケートのご意見・ご要望への回答について

平成 29 年度地域防災活動支援事業を実施するなかで、内海地区の皆様よりいただきましたご意見・ご要望への回答を以下にまとめました。

ご意見・ご要望の内容から分類した項目ごとに、基本的な考え方やご対応いただきたい点、市の施策・方針などを示しています。

今後の地区・ご家庭で防災活動に取り組む際の参考としていただきますよう、お願い申し上げます。

1. 地域の防災体制や取り組みについて

(1) 避難先の用途に応じた避難について

地震・津波などの災害が発生した場合の避難先については、用途に応じて「避難場所」と「避難所」に分けられます。

避難場所…災害による危険から身を守るために、一時的に避難する場所

避難所 …住居の被災または被災するおそれがあることにより避難生活を送る場所

地震・津波からの避難に当たっては、避難場所に避難し安全を確保したのち、自宅が安全な場合は帰宅し、安全が確保できない場合は避難所などへ再度避難（二次避難）する必要があります。

なお、市で整備する避難場所のうち、津波に対するものは「津波避難場所」と「津波緊急避難ビル」に分けられ、「津波緊急避難ビル」は津波の到達までに浸水が想定される区域外へ避難できない場合の避難場所となります。

冷水地区内には「津波緊急避難ビル」はありませんが、災害はどこで起こるかわからないため、避難先の用途をご理解いただくとともに、津波から避難する場合は、可能な限り「浸水想定区域外」の「津波避難場所」などに避難してください。

(2) 二次避難について

避難所への二次避難の基本的な考え方として、道路への浸水・がれきの堆積などの面から、浸水が想定される区域を通らずに避難できる経路を選択します。

冷水地区は、新たな避難所が整備できるまでは、塩津地区の「旧塩津小学校」が近隣の避難所となります。

(3) 安全な避難経路の確保について

避難場所までの避難経路については、配布した「わが家の避難マップ」に記載のある「避難時に注意を要する箇所」の確認や、実際に避難経路を歩くなどして、注意すべき箇所や通行不可となる可能性がある箇所などを事前に確認しておき、複数の避難経路や避難場所について所要時間も含め検討するなど、ご準備をお願いします。

また外出時に災害が起こる場合もあります。普段立ち寄る所などが津波浸水想定区域である可能性もありますので、津波ハザードマップで津波避難場所等を把握し、津波避難場所や避難経路の確認をしてください。

(4) 要配慮者の支援について

要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児など）の避難支援については、支援する側と支援を受ける側のそれぞれの意識や取り組みが必要となります。

支援する側	…近隣の要配慮者を把握し、見守る意識を持つ
支援を受ける側	…周囲に対して支援が必要であることを意思表示する

災害時の避難支援の実効性を高め、円滑に行うためには、平常時から気軽に話し合える関係を築くことが重要です。そのうえで、具体的にどのような支援を行うか（受けるか）を話し合い、災害時には支援する側の身の安全が確保できる範囲内で支援を行ってください。

(5) 物資・資機材の整備について

市の避難場所は「緊急的」「一時的」に避難する場所として、短期間の滞在を想定しています。この間に必要となる物資や資機材については、基本的には各家庭の非常用持出品及び自主防災組織の備蓄で対応いただくこととなります。また、トイレについても各家庭及び自主防災組織で整備したトイレ袋等で対応いただくようお願いします。

なお、避難場所に備蓄する物資・資機材のほか、要配慮者の避難支援のための車椅子やヘルメットなどの整備に要する経費については、「自主防災組織育成補助金」の対象となりますので、活用を検討される場合は、自主防災会でご協議のうえ、危機管理課までご相談ください。

(6) 防災体制の整備と防災活動について

防災に対する研修や課題に応じた訓練などは、地区の皆様の防災意識（自助）の向上や地域の防災力（共助）を高めることにつながるため、積極的に実施してください。

組織力を高める手段の一つとして、防災リーダー（防災士）を育成することも有効です。防災士の資格取得費用については「自主防災組織育成補助金」の対象となりますので、ぜひご利用ください。

また、市では地区ごとの津波の避難計画の作成を推進しています。作成を検討される場合は、地区でご協議のうえ、危機管理課までご相談ください。

避難路・避難場については、いざと言うときに迅速に避難することができるよう、日頃から維持管理に努めましょう。

2. 市の防災施策・方針について

(1) 避難場所・避難所・避難路の整備について

避難場所周辺の避難誘導灯・避難誘導看板の整備については、各避難場所ごとに年次的に整備を進めており、未整備分が完了したのち、再度の整備等について検討します。

避難場所及び避難路の舗装・段差解消や手摺の設置などにつきましては、危機管理課または建設課までご相談ください。

(2) 地震による建築物等の倒壊・崩壊対策について

地震による倒壊・崩壊のおそれがある空き家、未耐震の住宅、がけ地・急傾斜地について、または、各担当課（下記参照）にて対応いたしますので、地区でご協議のうえ、ご相談ください。

空き家対策、住宅の耐震対策…都市整備課

がけ地・急傾斜地 …建設課

(※がけ地・急傾斜地の整備は和歌山県の事業となるため、建設課でとりまとめ、和歌山県に要望します。)

なお、旧冷水分校の急傾斜対策については、避難所として使用しないことから、実施を要望いたしません。

(3) プレジャーボート対策について

市では、海南市水域におけるプレジャーボート等放置艇対策として、市内沿岸部4カ所（築地・日方・冷水・下津）に小型船係留施設及び駐車場等の整備を進めています。

お問い合わせやご要望がある場合は、地区でご協議のうえ、管理課までご相談ください。

(4) 風水害時の浸水対策について

対応・方針を検討いたしますので、地区でご協議のうえ、建設課までご相談ください。

(5) 防災行政無線の難聴対策について

市では、防災行政無線の放送内容を、放送後の1時間程度の間、電話で確認できる「電話案内サービス（フリーダイヤル、☎0120-170089）」を実施していますので、防災行政無線が聞き取りにくい場合は、ご活用ください（通話料は無料です）。なお、放送後1時間以上の経過や新たな放送があった場合は、放送内容が消去・上書きされますのでご注意ください。

また、市のメール配信サービスでも放送内容を確認することができます。登録を希望される場合は、危機管理課までご相談ください。

なお、災害情報は、上記のほか、地デジデータ放送、市ホームページ、フェイスブック、エリアメール・緊急速報メール（避難勧告・避難指示（緊急）のみ）等で確認できます。

(6) その他の防災に関する意見・要望について

上記以外の防災に関する意見や要望がある場合は、危機管理課までご相談ください。